

## 神奈川大学 松岡紀雄教授の「最終講義」

お世話になります。5期生多賀です。

2月5日、福井先生からご案内頂いた神奈川大学 松岡紀雄教授の「最終講義」(松下幸之助から学び、いま思う日本の行く末)に参加しました。天沼さん、水戸さんも参加。そのときの懇親会の写真を送信します。福井先生と懇談されているのが松岡教授です。携帯で撮ったとき左下に自分の指がかかってしまったようで申し訳ありません。

当日の最終講義の会場は立つ人も出たようで冷房が欲しいほどの熱気にあふれていました。学長の挨拶では、本来、最終講義は学内を対象だが今回は学外の人が非常に多く、異例とのことでした。

それだけ、松岡教授が関わられていた人の多さ、指導力、人望の厚さが伺われました。講義は問題が山積みしている日本の現状を憂い、活力のある世の中にするにはどうしたらよいか、松下幸之助氏の教え、松岡教授ご自身のお考えを熱く語られました。財政問題、少子化対策、経済の活性化、大学の就職難.....。わかりやすく引き込まれるような講義であつという間に時間が過ぎました。しかし、考えさせられることが多く自分の無知を思い知らされました。



## 松下幸之助から学びて、

## いま思う日本の行く末

### 《松岡教授の最終公演会に参加して》

2月4日の午後に神奈川大学の松岡紀雄教授の最終講演会を拝聴した。実は松岡先生は、個人的には宇津崎光代さんという「住育」という考え方を進めて活動しているかたと一緒に伊勢原の菜根淡の実践塾で一度お会いしただけの関係である。我々5期生の実践塾の日だったので、御挨拶程度の会話でお別れた。その時の印象は、品の良い方だなという程度であった。

昨年の暮れに福井塾経由で最終講義の案内があり、お会いしたことを思い出して参加希望の連絡を入れた。松岡先生のことを、何も知らずに最終講義に行くわけにはいかないと、早速、一夜漬けではあるが地元の図書館で「ボランティアを高く評価する社会(1997年)」という一冊を借りて読んだ。この著書の中で、先生はアメリカの「ボランティア」の実態を多く紹介し、学校教育でのボランティア精神の育み方、企業や行政のボランティアの評価と表彰の必要性などを説いている。日本のボランティアに対する20世紀から21世紀への松岡先生の希望と期待が込められている。

今回の最終講義は、私にとっては全くの異分野なので、話は半分理解できれば良いと思い参加したが、予想に反して私にも理解ができる大変に楽しく、意義深い講義であった。

松下幸之助翁のエピソードを上手に引用や紹介をしながら、闊達なしゃべり口調での講義はやはり経営学部の教授であると感心した。

講義は、松岡先生から100枚のパワーポイントを使い、通常であれば5時間分の内容を90分にまとめたものである、とのことわりから始まった。

先生は、大学受験では電子工学をめざしたが失敗し、その後法学部に入学された。この受験失敗がなければ、後に松下幸之助翁との出会いをはじめとして多くの方々との出会いはなく、本日の最終講義ができる自分はない、という人との巡り合いの大切さを説き、いよいよ松下幸之助から学んだ経営哲学に基づいた楽しい講義が開始された。

多くの松下語録とエピソードの紹介の中で、最も印象に残ったのは、松下製品の販売方法のクレームが社会問題になった時に全国主婦連からの抗議を「今の松下電気に対する苦言暴言は、神様が主婦連のみなさんの口を借りて行っている言葉である。したがって真摯に受け止めて改善しなければ・・・」という幸之助の考え方であった。松下電器は、その後1年ほどで売上は騒動前を上回ったそうである。

松岡先生は、経営の神様のもとで多くの経営と人生の実践を重ねられ、さらに研究者、教育者としての業績を重ねられたのだと思う。

先生の講義の中で使われた言葉をいくつか紹介すると「市民＝志民」「企業市民」「二所懸命」など社会貢献・福祉に根差した言葉が多い。先生の提案されている言葉からは社会に対する優しさや思いやりが強く感じられ、松下幸之助翁から松岡先生が受けられた薫陶に、さらに先生が薫陶を重ねて、今日、我々が受けた感がある。

後日の先生のホームページに、「変な最終講義を変なりに無事に終えることができました・・・」とのお礼挨拶が掲載されていました。今回拝聴した松岡先生の最終講義は、私にとっては「変な」どころか大いに身にしみ、心に残る「名講義」であった。

松岡先生は、福井先生とのつながりや平塚市の活動団体の支援もされているようで、まだまだ講演を聞いたり、お話ができる機会があることを期待している。

2011年2月8日記 天沼（5期生）